

# 大豆栽培管理情報（かん水・防除号）

令和6年8月1日  
アルプス農協管内農業技術者協議会

莢先熟（青立ち）の防止と収量安定のため、**莢数と稔実子実重を確保**することが重要となります。今後は、「**開花期～9月上旬までの畦間かん水**」を実施し、「**病害虫防除**」を適期に行いましょう。

## 1. 畦間かん水 ～開花期以降の干ばつを防止しましょう～

- ・3日間以上晴天が続く場合は、土壌が乾きすぎる前に、繰り返し**畦間かん水**を行いましょ。
- ・かん水は**短時間で行い**、圃場全体に水が行き届いたら水口を止め、**速やかに排水**しましょう。
- ・かん水は**朝夕の涼しい時間帯**に行いましょう。
- ・地域での計画的な用水の利用を行いましょう。



畦間かん水の様子



乾燥した土壌

土壌が乾燥しすぎると、圃場全体に水が行き渡りにくくなります



水不足の大豆

葉が立ち、裏側が見えてくる前に、畦間かん水を実施しましょう

## 2. 病害虫防除 ～虫害による莢数の減少・子実肥大停止を防ぐために防除を徹底～

- ・紫斑病、カメムシ類等の病害虫を対象とした**2回の基本防除を徹底**しましょう。
- ・農薬の使用基準を守り、周辺への飛散防止に努めましょう。

### <病害虫防除の目安>

散布時期		基本防除		随時防除
		8月中旬 【莢が伸びきった頃】	8月下旬 【枝豆程度の頃】	8月中旬～9月中旬 【害虫を発見したら】
対象病害虫 農薬名 散布量	粉剤体系	紫斑病、カメムシ類 Zボルドー粉剤DL 3 kg/10a + スミチオン粉剤3DL 4 kg/10a	紫斑病、カメムシ類、 マメシクイガ、ハスモンヨトウ トライトレボン粉剤DL 3～4 kg/10a	カメムシ類、ハスモンヨトウ アブラムシ類、マメシクイガ トレボン粉剤DL 4 kg/10a
	液剤体系	紫斑病、カメムシ類、 アブラムシ類 トライフロアブル 1,000倍 + ダントツフロアブル 2,500倍 150 L/10a	紫斑病、カメムシ類、 アブラムシ類、 マメシクイガ、ハスモンヨトウ アミスタートレボンSE 1,000倍 150 L/10a	カメムシ類、ハスモンヨトウ アブラムシ類、マメシクイガ トレボン乳剤 1,000倍 150 L/10a



紫斑病



イチモンジカメムシ



ホソヘリカメムシ



トゲシラホシカメムシ



ハスモンヨトウ

※基本防除後もカメムシ類を発見したら、随時防除をしましょう。

※幼虫が大きくなると、防除効果が十分得られないため、白いレース状の葉の食害や幼虫を見かけたら、早急に防除しましょう。

## 3. 雑草防除 ～早めの雑草抜き取り～

- ・雑草は**結実する前に抜き取り**ましょう。
- ・特に、**株間に残った大型雑草**や**帰化アサガオ類**、**イヌホオズキ類等の難防除雑草**は、防除後も再発生することがあるので、ほ場周辺も含め**継続的に抜き取りを徹底**しましょう。

**農作業中の熱中症・事故に注意！ 高温時の作業を避け、こまめな休憩・水分補給を！**